

米国農務省穀物等需給報告(2017年3月9日発表のポイント)

平成 29 年 3 月 10 日
大臣官房政策課食料安全保障室

米国農務省は、3月9日(現地時間)、2016/17年度の11回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。
－2016/17年度の穀物及び大豆の生産量は消費量を上回る見込み－

1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み)

- ① 生産量: 25億7,312万トン(対前年度比 4.7%増)
- ② 消費量: 25億5,300万トン(対前年度比 4.9%増)
- ③ 期末在庫量: 6億2,261万トン(対前年度比 3.3%増)
期末在庫率: 24.4%(対前年度差 0.4ポイント減)

【主な品目別の動向】

小麦 : 生産量は、EUで多雨(フランス)により減少するものの、ロシアで良好な作柄と高単収に恵まれ増加、豪州で単収の上昇から増加、米国で冬小麦の単収が史上最高となり増加すること等から、世界全体では史上最高となる見込み。また、消費量は、インド、中国、カナダ、ロシア等で増加することから史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を上回るものの、期末在庫率は前年度より低下。

- ① 生産量: 7億5,107万トン(対前年度比 2.2%増)・・・ロシア、豪州、米国、アルゼンチン等で増加、EU等で減少(前月に比べ、豪州等で上方修正)
- ② 消費量: 7億4,142万トン(対前年度比 4.1%増)・・・インド、中国、カナダ、ロシア等で増加、EU等で減少
- ③ 期末在庫量: 2億4,994万トン(対前年度比 4.0%増)・・・中国、ロシア、米国等で増加、インド、EU等で減少
期末在庫率: 33.7%(対前年度差 0.0ポイント減)

とうもろこし : 生産量は、中国で国家備蓄政策廃止及び国内価格低下に伴う播種面積減により減少するものの、米国で単収の上昇、ブラジルでは夏とうもろこし、冬とうもろこし共に播種面積及び単収の増加、アルゼンチンでも早植えとうもろこしの播種面積及び単収の増加が見込まれること等から、世界全体では史上最高となる見込み。また、消費量は、米国、中国、ブラジル等で増加することから史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を上回るものの、期末在庫率は前年度より低下。

- ① 生産量: 10億4,924万トン(対前年度比 9.1%増)・・・米国、ブラジル、アルゼンチン等で増加、中国等で減少(前月に比べ、ブラジル等で上方修正)
- ② 消費量: 10億3,943万トン(対前年度比 8.2%増)・・・米国、中国、ブラジル等で増加
- ③ 期末在庫量: 2億2,068万トン(対前年度比 4.7%増)・・・米国等で増加、中国等で減少
期末在庫率: 21.2%(対前年度差 0.7ポイント減)

米(精米) : 生産量は、タイで降雨により乾季米の灌漑用水量が十分確保され作付面積が拡大、インドでは収穫面積が増加、米国でも長粒種米の生産量が2010/11年度以来最高となることから、世界全体では前年度を上回り史上最高となる見込み。また、消費量は、インド等で増加することから史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を上回るものの、期末在庫率は前年度より低下。

- ① 生産量: 4億8,035万トン(対前年度比 1.7%増)・・・タイ、インド等で増加
- ② 消費量: 4億7,884万トン(対前年度比 1.7%増)・・・インド等で増加
- ③ 期末在庫量: 1億1,765万トン(対前年度比 1.3%増)・・・中国等で増加
期末在庫率: 24.6%(対前年度差 0.1ポイント減)

2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

生産量は、米国で単収の上昇から増加、ブラジルでは生育期間を通じて十分な降雨に恵まれたことによる単収の上昇から増加、中国では政策変更によるとうもろこしから大豆への播種転換の促進等から、世界全体では前年度を上回り史上最高となる見込み。また、消費量は、中国、アルゼンチン等で増加することから史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を上回り、期末在庫率は前年度より上昇。

- ① 生産量: 3億4,079万トン(対前年度比 8.9%増)・・・ブラジル、米国等で増加(前月に比べ、ブラジル等で上方修正)
- ② 消費量: 3億3,170万トン(対前年度比 5.3%増)・・・中国、アルゼンチン等で増加
- ③ 期末在庫量: 8,282万トン(対前年度比 8.1%増)・・・米国、ブラジル等で増加、アルゼンチン等で減少
期末在庫率: 25.0%(対前年度差 0.6ポイント増)

世界の穀物・大豆の需給動向

2017. 3

(米国農務省2017年3月9日発表)

【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17 (予想)	2016/17		(参 考) 2006/07
					前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
全体							
生産量		2,514.44	2,456.79	2,573.12	4.7%	15.7	2,004.8
消費量		2,455.08	2,433.49	2,553.00	4.9%	9.6	2,051.5
期末在庫量		579.18	602.48	622.61	3.3%	5.4	348.1
期末在庫率		23.6%	24.8%	24.4%	▲ 0.4	0.1	17.0%
小麦							
生産量		728.28	735.25	751.07	2.2%	2.8	596.7
消費量		705.69	712.48	741.42	4.1%	1.0	616.5
期末在庫量		217.52	240.29	249.94	4.0%	1.3	133.4
期末在庫率		30.8%	33.7%	33.7%	▲ 0.0	0.1	21.6%
粗粒穀物							
生産量		1,307.60	1,249.37	1,341.70	7.4%	12.7	988.0
消費量		1,271.88	1,250.07	1,332.74	6.6%	8.4	1,013.8
期末在庫量		246.75	246.05	255.01	3.6%	4.3	139.3
期末在庫率		19.4%	19.7%	19.1%	▲ 0.5	0.2	13.7%
とうもろこし							
生産量		1,015.58	961.85	1,049.24	9.1%	9.0	716.5
消費量		980.66	960.69	1,039.43	8.2%	6.4	731.2
期末在庫量		209.70	210.87	220.68	4.7%	3.1	108.9
期末在庫率		21.4%	21.9%	21.2%	▲ 0.7	0.2	14.9%
米(精米)							
生産量		478.55	472.16	480.35	1.7%	0.2	420.1
消費量		477.51	470.93	478.84	1.7%	0.2	421.2
期末在庫量		114.91	116.15	117.65	1.3%	▲ 0.3	75.4
期末在庫率		24.1%	24.7%	24.6%	▲ 0.1	▲ 0.1	17.9%

【大豆】

項目	年度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17 (予想)	2016/17		(参 考) 2006/07
					前年度比	前月差	
生産量		319.60	312.81	340.79	8.9%	4.2	235.7
消費量		302.00	314.92	331.70	5.3%	1.0	224.7
期末在庫量		77.49	76.59	82.82	8.1%	2.4	63.1
期末在庫率		25.7%	24.3%	25.0%	0.6	0.7	28.1%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(March 9, 2017)

「Grain: World Markets and Trade」、 「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、米(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / 消費量

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、米(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、2008年の価格高騰の原因となった2006/07年度の需給について掲載。

7) なお、「Grain: World Markets and Trade」、 「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」については、公表された最新のデータを使用している。

米国の穀物・大豆の需給動向
(米国農務省2017年3月9日発表)

2017.3

【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17 (予想)	2016/17		(参 考) 2006/07
					前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
全体							
生産量		439.49	429.26	472.57	10.1%	0.0	335.5
消費量		346.98	348.28	367.21	5.4%	0.0	277.8
輸出货量		83.28	81.59	93.78	14.9%	▲ 0.0	86.0
期末在庫量		68.98	76.14	95.22	25.1%	▲ 0.3	49.9
期末在庫率		16.0%	17.7%	20.7%	2.9	▲ 0.1	13.7%
小麦							
生産量		55.15	56.12	62.86	12.0%	0.0	49.2
消費量		31.33	32.02	33.91	5.9%	0.0	30.9
輸出货量		23.52	21.09	27.90	32.3%	0.0	24.7
期末在庫量		20.48	26.55	30.73	15.7%	▲ 0.3	12.4
期末在庫率		37.3%	50.0%	49.7%	▲ 0.3	▲ 0.5	22.3%
粗粒穀物							
生産量		377.23	367.01	402.60	9.7%	0.0	280.0
消費量		311.34	312.70	329.10	5.2%	0.0	242.8
輸出货量		56.70	57.07	62.39	9.3%	▲ 0.0	58.3
期末在庫量		46.95	48.11	62.83	30.6%	▲ 0.0	36.2
期末在庫率		12.8%	13.0%	16.0%	3.0	▲ 0.0	12.0%
とうもろこし							
生産量		361.09	345.51	384.78	11.4%	0.0	267.5
消費量		301.79	298.87	314.85	5.3%	0.0	230.7
輸出货量		47.42	48.20	56.52	17.3%	0.0	54.0
期末在庫量		43.97	44.12	58.93	33.6%	0.0	33.1
期末在庫率		12.6%	12.7%	15.9%	3.2	0.0	11.6%
米(精米)							
生産量		7.11	6.13	7.12	16.2%	0.0	6.3
消費量		4.30	3.55	4.19	18.0%	0.0	4.1
輸出货量		3.06	3.42	3.49	2.0%	0.0	2.9
期末在庫量		1.55	1.48	1.66	12.2%	0.0	1.3
期末在庫率		21.1%	21.2%	21.6%	0.4	0.0	18.0%

【大豆】

項目	年度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17 (予想)	2016/17		(参 考) 2006/07
					前年度比	前月差	
生産量		106.88	106.86	117.21	9.7%	0.0	87.0
消費量		54.96	54.64	56.29	3.0%	0.3	53.5
輸出货量		50.14	52.69	55.11	4.6%	▲ 0.7	30.4
期末在庫量		5.19	5.35	11.84	121.3%	0.4	15.6
期末在庫率		4.9%	5.0%	10.6%	5.6	0.4	18.6%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(March 9, 2017)

「Grain: World Markets and Trade」、 「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、米(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / (消費量 + 輸出货量)

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、米(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。
なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、2008年の価格高騰の原因となった2006/07年度の需給について掲載。

7) なお、「Grain: World Markets and Trade」、 「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」については、公表された最新のデータを使用している。

(参考1)

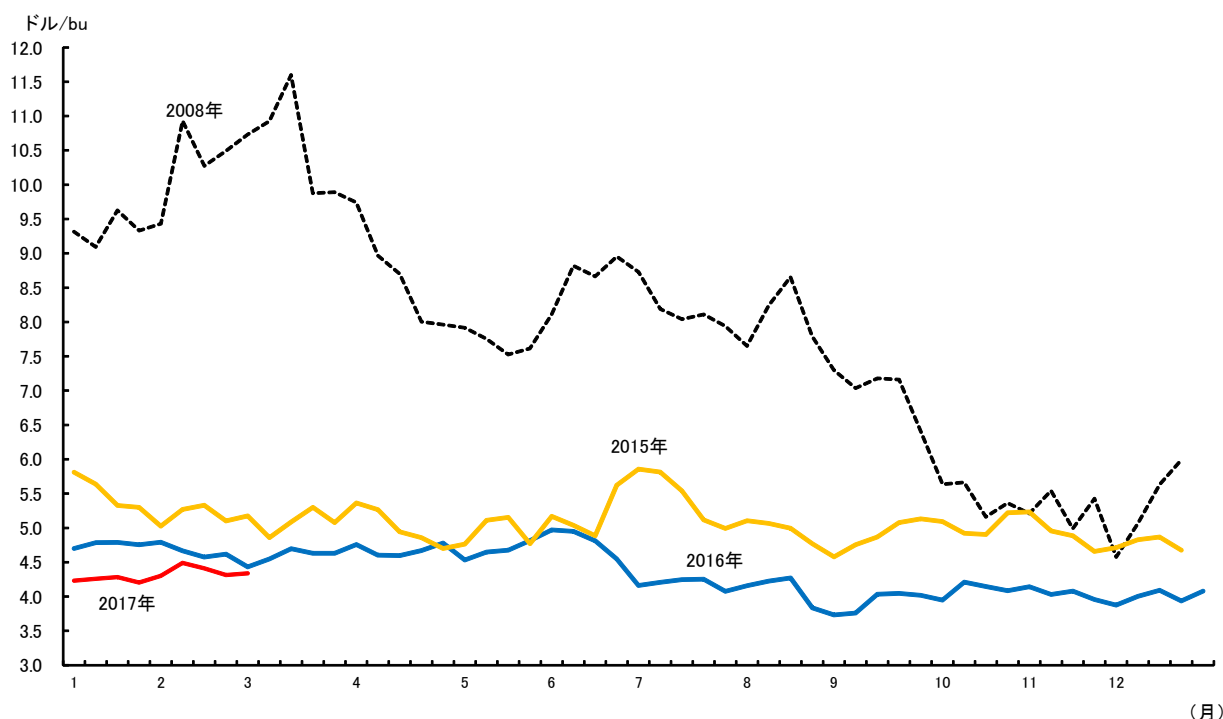
世界の穀物の価格動向(2017年)

- 小 麦: 4.34ドル/bu (前年同時期の価格:4.55ドル/bu)
(価格は、シカゴ商品取引所における3月第1週末の期近価格(セツルメント)。)

2015年1月以降、世界的に潤沢な在庫・供給量が改めて確認される中、米ドル高の進展による米国産の割高感、米国大平原での降雨・降雪による土壌水分量の上昇、4月以降の米国春小麦の作付進展等から4ドル/bu台後半まで値を下げたものの、5月以降、米国冬小麦の多雨による作柄悪化懸念・収穫遅延等から6ドル/bu近くまで値を上げた。7月以降、世界全体の供給量が潤沢なこと、米国での収穫進展等から4ドル/bu台半ばまで値を下げたものの、9月以降、黒海沿岸地域や豪州での乾燥懸念等から5ドル/bu台前半まで値を上げた。11月以降、米国産冬小麦の作柄改善見込み等から4ドル/bu台後半まで値を下げた。

2016年2月以降、米国大平原での降雪による凍害懸念の後退、米国の農業観測会議における需給緩和見通し等から4ドル/bu台前半まで値を下げた。3月以降は米国大平原での乾燥・気温低下、5月以降は米国の中西部及び大平原南部、欧州・黒海沿岸地域での多雨型の天候による作柄悪化懸念から5ドル/bu前後まで値を上げたものの、6月以降は米国で冬小麦の順調な収穫進展、8月以降は米国で春小麦の順調な収穫進展及びカナダの豊作見込み等から12月には4ドル/bu前後まで値を下げた。

2017年1月以降、米国や黒海沿岸地域の冬小麦の凍害懸念や米国の低水準な冬小麦作付面積推定も、豪州、アルゼンチンの豊作見込み等から、現在は4ドル/bu台前半で推移。



注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格の推移。

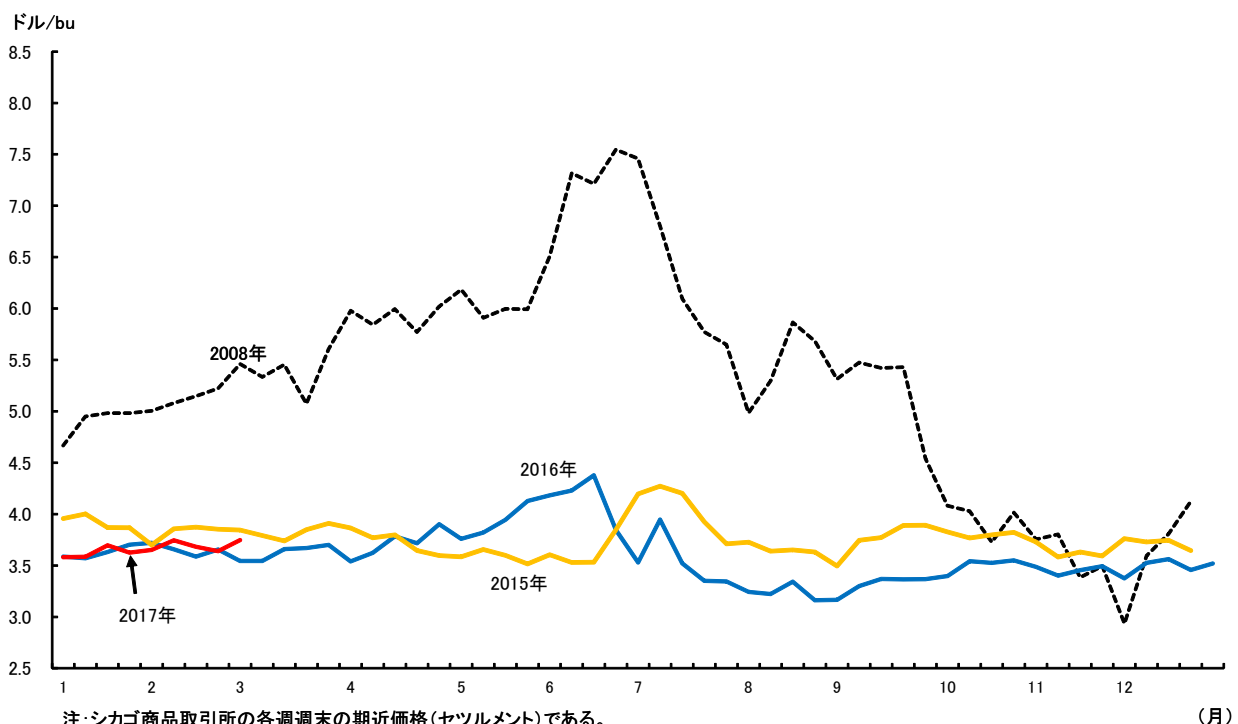
(月)

- とうもろこし: 3.75ドル/bu (前年同時期の価格: 3.55ドル/bu)
(価格は、シカゴ商品取引所における3月第1週末の期近価格(セツルメント)。)

2015年1月以降、南米の豊作見込みや、4月以降の米国の作付進展等から3ドル/bu台半ばまで値を下げたものの、6月中旬以降、多雨による作柄低下懸念等から4ドル/bu台前半まで値を上げた。7月中旬以降、米国中西部での天候回復から3ドル/bu台半ばまで値を下げたものの、9月以降、世界の期末在庫の引き締め見込みから値を上げた。11月上旬以降、中国の在庫大幅引上げや米国の単収見込み引上げによる需給緩和観測等から3ドル/bu台半ばまで値を下げた。

2016年4月以降、ブラジル中西部での乾燥型の天候やアルゼンチンの多雨型の天候による収穫遅延及び作柄悪化懸念及び米国中西部での高温・乾燥予報による作柄悪化懸念から4ドル/bu台前半まで値を上げたものの、6月中旬以降、米国中西部で降雨による豊作見込みから3ドル/bu台前半まで値を下げた。

2017年1月以降、米国で堅調なエタノール需要も、通商政策の変更による最大輸出先のメキシコ向け輸出の先行き不透明感等から、現在は3ドル/bu台後半で推移。



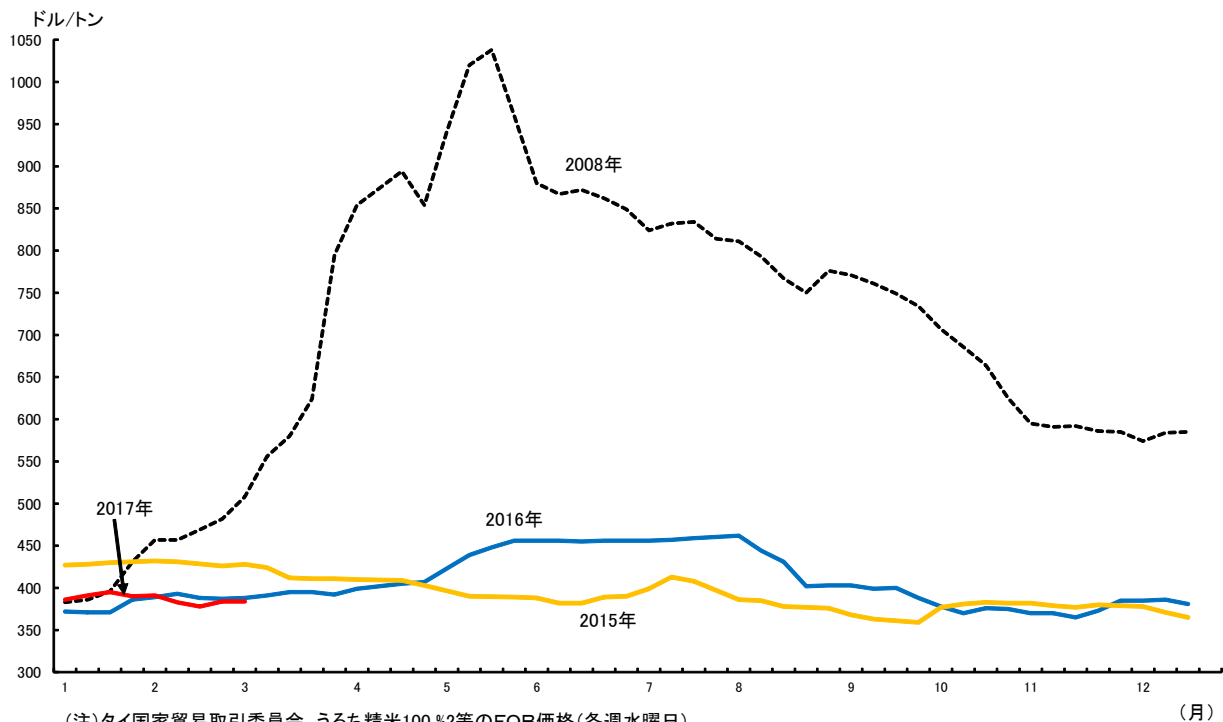
注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格の推移

(月)

● 米：384ドル/トン（前年同時期の価格：388ドル/トン）
 （価格は、タイ国家貿易取引委員会における3月第1水曜のFOB価格。）

2015年1月以降も、引き続きタイの政府在庫放出から380ドル/トン台まで値を下げた。タイの干ばつによる供給不足懸念から、7月半ばには410ドル/トン前後まで値を上げたものの、その後のタイの更なる政府在庫放出から9月下旬には360ドル/トン前後まで値を下げた。10月以降、フィリピン、インドネシアの輸入見込みから380ドル/トン台まで値を上げたものの、11月下旬以降、インドでの収穫の進展等から360ドル/トン台半ばまで値を下げた。

2016年1月半ば以降、タイでの水不足による乾季米の不作から460ドル/トン台まで値を上げたものの、8月以降、雨季到来後の十分な降雨による雨季米の順調な生育、9月以降は旧穀の在庫処分の推進、10月以降は新穀の出回りの開始等により、11月半ばには360ドル/トン台まで値を下げた。その後、タイ政府による政府備蓄米の放出停止や農家への粳米保管支援等から値を戻し、現在は380ドル/トン台で推移。



（注）タイ国家貿易取引委員会、うるち精米100%2等のFOB価格（各週水曜日）
 グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格推移。

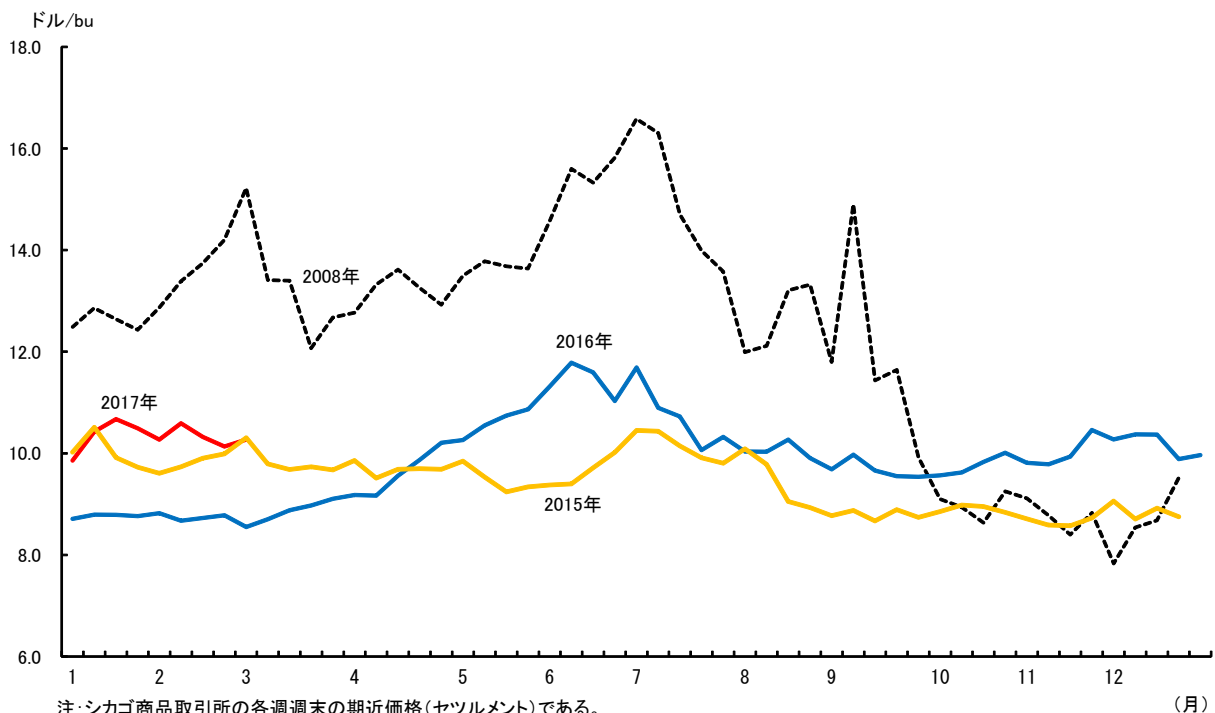
● 大豆：10.27ドル/bu（前年同時期の価格：8.71ドル/bu）

（価格は、シカゴ商品取引所における3月第1週末の期近価格（セツルメント）。）

2015年1月以降、南米の豊作見込み等から値を下げた後、2月中旬から3月初旬のブラジルでのトラック運転手によるストライキを受けて一旦値を戻した。5月中旬以降、米国の作付進展等から9ドル/bu台前半まで値を下げたものの、6月上旬以降、米国中西部の一部で頻繁な降雨による作付遅延により10ドル/bu台半ばまで値を上げた。7月中旬以降の天候回復、8月中旬以降の中国の輸入減退懸念等により値を下げた。

2016年3月初旬以降は堅調な輸出需要、4月以降はアルゼンチンの多雨型の天候による収穫遅延及び作柄悪化懸念及び米国中西部での高温・乾燥予報による作柄悪化懸念から11ドル/bu台後半まで値を上げたものの、7月上旬以降、米国中西部で降雨による豊作見込みから9ドル/bu台後半まで値を下げた。11月以降、米国のバイオディーゼル使用義務量の見直し等から10ドル台半ばまで値を上げたものの、南米での乾燥懸念の後退等から9ドル/bu台後半まで値を戻した。

2017年1月上旬、アルゼンチンの降雨過多による作柄悪化懸念により値を上げたものの、1月下旬以降は天候回復等により値を戻し、現在は10ドル/bu台前半で推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セツルメント）である。
グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格の推移。

（月）

(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年1月	2月
114.35	100.64	92.85	85.71	79.05	82.89	100.16	109.75	120.13	118.25	115.02
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2017年1月
113.07	109.88	109.15	105.49	103.90	101.27	102.4	103.82	108.18	115.95	114.73
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
113.06										

出典：為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート
日本銀行; 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>
年度別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年1月	2月
78.91	93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	46.63	44.35	30.30	22.25	20.25
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2017年1月
22.00	23.50	25.80	27.50	30.75	29.00	30.25	31.75	35.00	37.00	36.20
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
36.00										

出典：米国(ガルフ)ー日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC Grain Market Indicators」
月別は、週別価格の平均値。

3 原油価格(WTI: 米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年1月	2月
72.34	99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	97.97	93.00	48.80	31.78	30.62
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2017年1月
37.96	41.12	46.80	48.85	44.80	44.80	45.23	49.94	45.76	52.17	52.61
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
53.37										

出典：内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ -月次アップデート-」平成29年2月, 125頁
但し、2017年2月は、米国エネルギー情報局(U.S. Energy Information Administration)「Weekly Petroleum Status Report」の2月24日までの週別価格の平均値。